

令和元年度 鹿児島県広報コンクール

① 広報紙 ② 発行部数・年間発行回数 ③ 判型・平均ページ数 ④ 担当課

■ 広報紙部門

〈 特 選 〉



- ① 広報 きりしま（2月号）
- ② 45, 400部・22回
- ③ A4判・32ページ（中綴じはがき4ページ含む）
- ④ 霧島市 秘書広報課



【特集】 きっと、幸せになろう 人権問題を考える

○ 講評

〔企画〕

- ・ 人権という堅く難しいテーマを、多面的なアプローチでかみ砕いている。写真の表情も明るさが感じられて、うまく構成されている。
- ・ 人権問題の企画はLGBTやいじめによる差別、偏見といった社会問題を不可避の課題と位置付けており、切り口に工夫を感じる。市民の意識や関心を高める意味でも意義深い。当事者や関係者の声を織り交ぜ、多面的に問題を捉えており評価できる。

〔文章〕

- ・ 特集企画は当事者の体験や考え方、問題との向き合い方を分かりやすく具体的に表現している。見出しも記事の内容を的確に表しており、読者を惹きつけている。他の企画も含めて、読みやすい文章だと思う。
- ・ 書き手のくせなのか、名詞で終わる体言止めが目につく。印象に残る言いまわしなので多用は避けたい。

〔デザイン・レイアウト〕

- ・ 読み物と情報をうまくすみ分けてまとめ、最後までめくってもらえるよう工夫されている。
- ・ 写真や見出しの配置、大きさとも全体的にバランスの良さを感じる。2Pと3Pの見開きや、18Pの躍動的な写真の使い方などは良いと思う。ただ、18Pから19Pへの文章のつなげ方に工夫が欲しかった。18Pはリード（前文）だけでも良かったのではないかな。

〔その他〕

- ・ クーポンや絵はがきを組み込んだ広報誌の例は他にもあるが、配置や扱いがしっかり考えられている。



令和元年度 鹿児島県広報コンクール

① 広報紙 ② 発行部数・年間発行回数 ③ 判型・平均ページ数 ④ 担当課

■ 広報紙部門

〈 入 選 〉



- ① 広報 かのや（9月号）
- ② 43,000部・24回（うち、お知らせ版12回）
- ③ A4判・28ページ（お知らせ版：A4判・8ページ）
- ④ 鹿屋市 政策推進課



【特集】 隔たりのない社会へ ハンセン病問題を理解する

○ 講評

【企画】

- ・園金（園内での通貨）をハンセン病問題の象徴として導入部に持ってきたのは秀逸。歴史や「とはもの」、インタビューなどの構成もいい。コンセプト通りに、難しいテーマを分かりやすく紙面展開しており読みやすい。
- ・ハンセン病の歴史にも触れており、読者の問題意識を高める工夫が見られる。過去の悲劇、問題点だけでなく未来への提言も盛り込まれ、地域づくりの側面でも読者を惹きつけている。他の企画では人物の紹介記事も多く、地域密着への姿勢を感じた。

【文章】

- ・リードも1字下げで始めたい。
- ・全体的に読みやすかった。オスプレイの展示に関するページでは、文章に数カ所、表現の重複があったのが気になる。

【デザイン・レイアウト】

- ・写真の大小、メリハリがあり良い。情報掲示板のページも読みやすく、好感が持てる。
- ・園金と療養所訪問に参加した子どもたちの真剣なまなざしを組み合わせたとの意図は、うまく伝わっただろうか。「誤った差別と偏見が自由と尊厳を奪った」という見出しに子どもたちの写真がかぶっているのも気になる。ここは、ハンセン病差別の実態にかかわる園金と同列の写真でよかったのでは。インタビューの表情写真はいずれもいい。垣根のない交流を象徴する握手の写真も効いている。

【その他】

- ・全体としてフォントを含めた色の多用がごちゃついた印象につながっている。



令和元年度 鹿児島県広報コンクール

① 広報紙 ② 発行部数・年間発行回数 ③ 判型・平均ページ数 ④ 担当課

■ 広報紙部門

〈 入 選 〉



- ① 広報 あいら AIRView (12月号)
- ② 29,000部・12回
- ③ A4判・38ページ
- ④ 始良市 秘書広報課



【特集】 人々をひきよせあう地域の底力 “ローカルフォース～地力～”

○ 講評

[企画]

- ・ 特集は柱の構成がしっかり立てられている。明るい表情写真を多用し、「地力」というテーマを視覚的にも補強している。全体的に各コンテンツが統一感を持ってまとめられており、読みやすい。
- ・ 「地力」企画は、子ども食堂や自治会活動、NPO法人の取り組みなど、様々な角度から地域力を分析、紹介しており面白い。取材対象者も世代や立場など幅を持たせた設定で、それぞれの視点を通じ、取り組みの特徴が感じられる。

[文章]

- ・ 特に気になる点はない。単調にならないよう、言葉の選択にも注意が払われている。
- ・ 見出しも含め、全体的に記事の内容が分かりやすく表現されているが、文章や単語の接続など、細かいところで気になる部分もあった。

[デザイン・レイアウト]

- ・ 切り抜き写真の使い方や、配置、写真に載せた文字の処理など細かいところまで気を遣っているのが分かる。情報と読み物をうまく並べて最後までページをめくらせる構成もいい。
- ・ 同一企画の中で、同じような構図の写真が複数あり、気になった。例えば3Pと6Pなど。6Pの写真は子どもたちが食卓を囲んでいる写真をメインにして、1枚だけでも良かったのではないかと感じる。見出しの文字ポイントなどを含め、記事と写真のバランスや配置などはシンプルで全体的に良い。

[その他]

- ・ 色遣いが上品。



令和元年度 鹿児島県広報コンクール

① 広報紙 ② 発行部数・年間発行回数 ③ 判型・平均ページ数 ④ 担当課

■ 広報紙部門

〈 入 選 〉



- ① 市報 そお SOO CITY (6月号)
- ② 15,500部・12回
- ③ A4判・40ページ
- ④ 曾於市 企画課



【特集】 もっと、お茶を好きになる

○ 講評

【企画】

- ・ 特集はインタビューから統計、周辺情報、飲み方まで過不足のない展開でうまくまとめられている。必要な行政情報をまとめて保存性の高いセンターワイドに持ってきたのも、市民の視点を踏まえた工夫が感じられる。
- ・ 特産品のお茶の良さを再認識させていることに加え、茶器を紹介してお茶を楽しむことへの魅力を喚起する見せ方、工夫も面白い。地域おこし協力隊のページも地域に密着しており、良い。

【文章】

- ・ 茶生産者の人柄がよく伝わる分かりやすい文章。特集以外のページも全体的に読みやすい。
- ・ 全体として読みやすい文章。(笑) ですまざず、表情をしっかり描写したい。

【デザイン・レイアウト】

- ・ 写真の大小などメリハリがあって良い。まちの話題や情報掲示板など他の企画も含め、レイアウトも全体的にバランスが取れている。
- ・ 横組みの文章を左から右まで、紙幅いっぱいに見せるのがやや読みにくい。カラフルだがトーンが統一されている。

【その他】

- ・ イベントの印象的な写真を表紙に据え、中面の関連記事に誘導する手法はうまい。



令和元年度 鹿児島県広報コンクール

① 広報紙 ② 発行部数・年間発行回数 ③ 判型・平均ページ数 ④ 担当課

■ 広報紙部門

〈 入 選 〉



- ① 広報 きんこう（6月号）
- ② 3, 800部・12回
- ③ A4判・32ページ
- ④ 錦江町 政策企画課



【特集】 森林と生きる

○ 講評

【企画】

- ・ ふるさとの基幹産業に焦点を当てた大型企画。十分に紙幅を割いて、データを交えながら多面的に切り込んでいる。林業に携わる現場人の表情も生き生きと伝わってきてよい仕上がりがり。ただ、写真に載せた文字やグラフが見やすくなるよう工夫がほしい。
- ・ 特集は森林資源の大切さや、伐採後の植林など対応の重要性を認識させ、地域の関心を高める面で意義深い。町の総面積の大半を占める木材資源の有用性や、林業従事者の紹介で、身近な問題として捉えられるよう工夫も感じる。

【文章】

- ・ 林業の専門性を分かりやすく伝えている。見出しもシンプルで分かりやすい。森林を「やま」と読ませている（表紙）一方で、「山」の表記（6P）もあるのが気になった。「森林」に統一した方が良かったのでは。
- ・ 文末の処理が単調なのが気になる。

【デザイン・レイアウト】

- ・ 企画特集の仕上がりがいい分、他のコンテンツが従来のつくりで単調さが目立つのが残念。全体としてのクオリティーが高められるとよかった。
- ・ 特集に関しては写真の大小にメリハリもあり、全体的にバランスが取れたレイアウトだと思うが、3Pの写真などはキャプションが背景に溶け込んで、やや読みづらい。文字の大きさや色を変えるなど、工夫を。



令和元年度 鹿児島県広報コンクール

① 広報紙 ② 発行部数・年間発行回数 ③ 判型・平均ページ数 ④ 担当課

■ 広報紙部門

〈 入 選 〉



- ① 広報 たるみず (3月号)
- ② 8,000部・12回
- ③ A B判・42ページ (3月号は40ページ)
- ④ 垂水市 企画政策課



【特集】 青少年海外派遣事業 夢の翼 中学生10人の香港物語

○ 講評

[企画]

- ・「夢の翼」の企画は、国際化社会に向け、次代を担う若者にスポットを当てた視点は良い。事業の全体像も丁寧に紹介している。ただ、全体的に平面なイメージが強く、期間中、特に強く紹介したい部分など強弱をつけても良かったのではないかな。
- ・ふるさとをアピールする絵はがきやクーポン、見開きページでの絶景紹介など意欲と工夫が感じられる。背表紙に市民に必要な情報を一覧表示しているのも、見た目に流されず広報誌としての役割が果たされている。

[文章]

- ・過剰な敬語表現が目立つ。文章の言い回しが全体として練れていない。横組みも文頭の1字下げを。
- ・全体的に文章が固いように感じる。10P文末の「ご紹介いたします」は「紹介します」にするなど、平易な書き方がすっきりする。具体的かつ詳しく解説している部分は良い。

[デザイン・レイアウト]

- ・手段と目的がマッチしていない気がする。例えばクーポンなどは広報誌を身近に感じ手にとって開いてもらう仕掛けだろうが、今号で広報誌がもっとも伝えたいのは特集ではないのか。表紙にもそう出している。手にとってもらう手段が巻頭の一番いいポジションで展開されることに違和感がある。また特集はきれいにつくってあるが、写真配置などでメリハリ感を出したい。
- ・「夢の翼」の企画は、写真の詰め込み感が否めない。特に、行程中の写真は、ある程度、枚数を絞り込んでのびのび使った方が良かったのではないかな。「まちの話題」のページは、読みやすいレイアウトだった。

[その他]

- ・市民のための出版物で、市長コラムがやや前に出すぎているのはどうか。

